

平成25年度宮城県芸術選奨受賞者一覧表

【芸術選奨】

受賞者	受賞理由(概要)
<p>桜井 忠彦(67歳) 美術(洋画)</p> 	<p>昭和21年生まれ 近年の大作、抽象による「流転」シリーズは人と自然という宇宙観が、地元及び中央においても注目され話題となっている。 また、作品制作だけではなく、自宅に画廊を手造りするなど個人や地元から中央や世界に発信しようとする姿勢は尊敬に値するものである。 宮城県芸術協会絵画部主任として県民に開かれた絵画を目指し、宮城県芸術祭絵画展において公募部門や会員外若手作家の発表の場を中心となって新設し、会員増と鑑賞者の拡大に貢献された功績は大きい。 作家・美術教育者として、多くの尊敬と信頼が寄せられており、今後も本県芸術の向上・振興などへの活躍が期待される。</p>
<p>及川 茂(74歳) 美術(彫刻)</p> 	<p>昭和15年生まれ 彫刻界の動向は時代の流れとともに表現の多様化が進み、近代から現代にかけて写實的・具象的な仏像彫刻や歴史人物像等の美術表現が衰退してきた中、作品の底流にある「伝統的な木彫技法」へのこだわりを通して、独自の造形思考を持ち続け、半世紀を越す活動をしてきた希少な彫刻家である。 生涯教育においても、伝統技術・美術の後継者育成に尽力。また、仏像の修理修復を手掛けており、寺社仏閣などにパブリックコレクションも多く、平成25年には黒川郡の観音寺に大迦葉(たいかしょう)を寄進するなど活躍している。 一層内容を深めた表現の多様な展開を期待するとともに、伝統技術の大切さを継承していく人材の育成など、今後の活動が期待される。</p>
<p>熊谷 達也(56歳) 文芸(小説)</p> 	<p>昭和33年生まれ 処女作「ウエンカムイの爪」(小説すばる新人賞受賞)以来、精力的に作家活動をしており、新田次郎文学賞、山本周五郎賞、直木賞と高名な文学賞の受賞を果たしている。 平成25年度には「調律師」「リアスの子」「微睡みの海」を刊行するなど、作品数は驚異的で、構想力豊かな内容は最後まで息もつかせず読ませる筆力と迫りに満ちている。 今後も、豊かで多彩な構想力による作品展開とともに、一貫したテーマを息長く追求する執筆姿勢に更なる活躍が期待される。 (写真提供: 荒蝦夷)</p>
<p>小野 和子(80歳) メディア芸術</p> 	<p>昭和9年生まれ 長年にわたり、宮城県内各地に伝承する民話の採訪と研究、民話集の刊行等に携る。従来の聞き取りと文字による書き起こしや、学術研究的な録画・録音という手法を超え、今回は若手映像作家と協働し民話を記録する活動を、メッセージをもった記録映画「うたうひと」として結実させた。 この映画は、小野氏の経験と人脈、そしてその存在無くしては完成し得ず、市井における伝承の語り手が既に数える程度の人々となった現在、語り目の現場を記録し、映画とする取り組みは、宮城の文化の伝承において有意義である。 今後も、活動を通して次世代へと広く長く周知されることが期待される。</p>

年齢は平成26年8月19日授賞式当日の年齢です。

(芸術選奨新人賞受賞者は裏面)

【芸術選奨新人賞】

受賞者	受賞理由(概要)
<p>齋藤 正和(32歳) 美術(洋画)</p> 	<p>昭和57年生まれ 大学在学中より版画による独自の絵画表現を追求。近年めざましい成果をあげており、宮城県芸術祭絵画展に最若手として推挙以後連続受賞するとともに、河北美術展でも近年連続受賞している。 また、中央展のみならず、塩竈市美術展、東北の建築を描く展などに生徒とともに出品し、常に高位の賞を受賞し、若手のホープとして生徒とともに旺盛に活躍している。 若干32歳で多忙な職務にもかかわらず、高校の美術教師として自ら率先し手本となり、制作・出品を続け、教え子の中からも中央公募展入賞者や河北美術展河北賞、文部科学大臣賞受賞者などを数多く輩出させ、その旺盛な指導力・制作力は美術界に活力を与えるものであり、今後の活躍が大いに期待される。</p>
<p>木村 剛士(34歳) 美術(彫刻)</p> 	<p>昭和55年生まれ 東北生活文化大学卒業後、母校の宮城野高等学校で講師を務めた後、東京の多摩美術大学院に進学。作家活動を続け、岐阜県各務原市官学共同彫刻設置事業で大賞、群馬青年ビエンナーレ2010奨励賞を受賞。東京での作品発表以外にも宮城県のグループ展等に積極的に参加している。 斬新かつ独創的、意欲溢れる出品作品は宮城のアートシーンに大いなる刺激を与えた。 東北での制作活動を通し、県内での発表の機会を増やし、今以上の新鮮な刺激を与えてくれることが期待される。</p>
<p>斉藤 梢(54歳) 文芸(短歌)</p> 	<p>昭和35年生まれ 平成25年6月に出版した「遠浅」は平成9年から24年までの作品を収録した第2歌集であり、特に名取市において東日本大震災で被災した体験を詠む。 「遠浅」の作品世界は結社誌でも歌壇でも高く評価され、また、NHK総合テレビ「3.11万葉集」(平成26年3月19日)にも取り上げられ、多くの人に感銘を与えた。 河北カルチャーセンターの短歌講師として後進の育成にも努めており、今後の更なる活躍が期待される。</p>
<p>高橋 絵里(42歳) 音楽(声楽)</p> 	<p>昭和47年生まれ 他の声楽家があまり取り上げないルネサンス、バロック期の作品を中心とした特色あるコンサートを多数開催しており、また、「ソプラノ・デュオで聞くバロック音楽」シリーズを開催。質の高い演奏を披露するとともに、毎回ゲストを変え多彩な作品を紹介している。 東北各地の教会での宗教曲演奏会にも多数参加しており、合唱団講師、ボイストレーナーとして幅広く活動している。 独自企画による、上質で特色あるコンサートシリーズの開催や、演奏、合唱団指導など県内外での幅広い活躍が続けられると共に、今後の宮城県の音楽文化の発展に寄与し、本県の重要な人材となることが期待される。</p>
<p>野々下 孝(39歳) 演劇</p> 	<p>昭和50年生まれ 仙台シアターラボの代表として、優秀な人材の育成に尽力するとともに、公演「透明な旗」において、現代演劇の尖鋭的なスタイルである「構成演劇」を高い水準で展開。俳優としても、質の高い的確な演技を見せている。 作品創造と並行して、ワークショップ等の教育活動にも尽力しており、仙台に俳優養成システム「山の手メソッド」を紹介し、その定着に尽力している。 「構成演劇」の手法をより一層高め、ワークショップ等の教育普及活動によって演劇の魅力を広く知らしめ、将来の仙台演劇界を担う人材育成に尽力されるなど、今後の活躍が期待される。</p>
<p>佐藤 飛鳥(25歳) 舞踊</p> 	<p>平成元年生まれ 「海賊」のグラン・パドゥ・ドウをカール・パケット氏(パリオペラ座エトワール)と共演。他にも国内外でのコンクール受賞歴も華々しく、クラシックバレエダンサーとして国際的に通用する人材である。 更にコンテンポラリーの分野においても創作活動を行っており、「X」未知なる可能性を信じたいという自作自演の作品は、切れ味鋭い動きに恵まれた肉体を駆使して、見事に謳い上げた。 クラシックバレエそしてコンテンポラリーの融合から生まれる創作作品の制作とともに、ダンサーとして、優れた肉体と両方のテクニックを超越した次元での展望、ソロあり、コールドバレエ(群舞)ありといった活躍が期待される。</p>